

平成23年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2011-A-01(2206)

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：マグマの発泡過程に注目した噴火履歴・多様性・推移の定量的把握と支配要因の特定英文：Identification of controlling factors and quantitative understanding of history, diverse and shifting styles of eruptions from the viewpoint of vesiculation process of magmas4. 研究代表者所属・氏名 九州大学理学研究院・寅丸 敦志(地震研究所担当教員名) 企画部

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
寅丸敦志	九州大学・教授	研究会主催・発表	2011/11/25	1	無し
中村美千彦	東北大学・准教授	研究会参加・発表	2011/11/25	1	無し
西村太志	東北大学・准教授	研究会参加・発表	2011/11/25	1	無し
市原美恵	東京大学・助教	研究会参加・発表	2011/11/25	1	無し
安田敦	東京大学・助教	研究会参加・発表	2011/11/25	1	無し
山本稀	東北大学・助教	研究会参加・発表	2011/11/25	1	無し
奥村聡	東北大学・助教	研究会参加・発表	2011/11/25	1	無し
吉田茂生	九州大学・准教授	研究会参加	2011/11/25	1	無し

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード：噴火素過程，微動，FT-IR，浸透率

次期噴火予知計画では、地震予知計画と連携すると共に、これまでの予知計画にはなかった噴火素過程という項目が新たに付け加えられた。今年度は、平成 23 年 11 月 25 日に、九州大学において、研究集会を開催し、以下のようなプログラムで討論を行った。

午前

9：00 市原美恵：地震と空振に見られる調和型微動の発生に関するモデル実験

9：50 奥村聡：火山噴火におけるマグマレオロジーと脱ガスの相互効果の役割

10：40 中村美千彦（大槻静香・*中村美千彦・奥村聡・上杉健太郎）：
ブルカノ式噴火におけるガスだまりプロセス：低圧高温実験から

11：30 安田敦：顕微 FT-IR 反射法による火山噴出物中の水の定量

午後

13：30 寅丸敦志：噴出量と噴出様式を決める要因

14：20 西村太志：鬼首間欠泉の活動

15：10 山本希：遠地地震による火山性地震の誘発と間隙水圧変化・拡散

16：00 その他意見交換

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*¹または 2000～3000 字の報告書）

(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

A. Toramaru, M. Matsumoto, Numerical experiment of cyclic layering in a solidified binary eutectic melt, J. Geophys. Res. 117,2012, DOI 10.1029/2011JB008204 (謝辞への記載無、ポイント数 3)

A. Toramaru, K. Maeda, STATISTICAL CHARACTERISTICS OF EXPERIMENTAL GEYSERS: FACTORS CONTROLLING MASS AND STYLE OF ERUPTION, AGU fall meeting, December,9, 2011, V53A-2587, SanFrancisco, USA. (謝辞への記載無、ポイント数 2)